

2023 **4**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
²³ / ₃₀	24	25	26	27	28	29

2023 **5**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2023 **6**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2023 **7**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
²³ / ₃₀	²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29

2023 **8**

オープンキャンパス (病院地区)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2023 **9**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2023 **10**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

総合型選抜出願期間 (10/23~11/2)

2023 **11**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

学校推薦型選抜出願期間 (11/1~11/10)

総合型選抜 (第1次選抜)

2023 **12**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29	30

2024 **1**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

大学入学共通テスト

学校推薦型選抜 (第2次選抜) 申込

国立大学出願期間 (1/22~1/31)

2024 **2**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

一般選抜 (前期日程)

2024 **3**

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29	30



受験生のための

九州大学歯学部 2023

KYUSHU UNIVERSITY
SCHOOL OF DENTISTRY
2023



発行日 2023年6月1日
企画編集：九州大学歯学部 広報委員会広報誌担当
築山 能大、和田 裕子、井上 良介、緒方 謙一

九州大学歯学部についてのさらに詳しい情報は、ホームページをご覧ください。
URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学医系学部等学務課歯学学生係
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 TEL092-642-6261 FAX092-642-6263



「口腔の健康から全身の健康に貢献する」を実践できる次世代の歯科医師のリーダーを目指しませんか!

九州大学歯学部長 西村 英紀 (山口県立萩高等学校卒)



皆さんは歯学部についてどのようなイメージを持っていますか? ほとんどは卒業後、歯科医師として皆さんの近所の歯医者さんのように、診療所(クリニック)を開設し、地域医療に従事すると思っているのではないのでしょうか。たしかに近所の歯医者さんが地域歯科医療の最前線であることは間違いありません。ただし、歯科医師としての人生は、地域歯科医療に貢献するというだけではありません。優秀な次世代の人材を育成する教育者・指導者、新しい歯科医療の道を切り開く研究者、国や地域の医療を牽引する行政の仕事など、歯科医療の世界はとても広いのです。必ず、皆さんの得意なことや特徴を活かした進路が見つかり、希望を叶えることができると思います。歯科医療は大きな変革の時代を迎えています。ご存知のように、この半世紀の間に

日本は超高齢社会に突入しました。従来の歯科医療はう蝕と歯周病の治療が主体でしたが、高齢者においては口腔機能の維持や重症化予防がより重要になり、歯科医療には大きなパラダイムシフトが求められています。また、口腔の健康が全身の健康に密接に関わっていることが判り、歯科医療が国民の健康寿命の延伸に貢献できると大いに期待されています。さらに、社会の高齢化とともに訪問診療の需要も増え、歯科医療が地域包括医療の一端を担うことも求められています。昨今はマスコミなどで歯科医師数が過剰であると報道されていましたが、今後は歯科治療の重要性や需要が増すにつれて、むしろ歯科医師は不足し、多くの優秀な人材が求められることになると思います。社会に求められている仕事をするにはやり甲斐がありますし、充実した人生を歩むことに繋がります。次世代を担う皆さんの力があれば、歯科医療の未来はさらに強く輝くものになり、結果的に皆さんの人生も輝かしいものになるのは間違いありません。

九州大学歯学部は、「口腔の健康から全身の健康に貢献する(Overall Well-being through Oral Health)」を理念に掲げ、教育・研究・診療を行っています。そのため、特に口腔の健康が全身の健康に及ぼす影響を追求する分野、失われた組織の再建や再生を目指す分野の研究に力を入れています。もちろん、歯科医師になるためには歯科医師国家試験に合格する必要がありますので、本学部で行われる教育も歯科医師国家試験に合格することを目的の一つとして行っています。しかし、本学部の教育はそこに留まらず、先に説明した重点分野における教育・研究、さらには幅広く生命科学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍でき、高い専門性と国際性を有した人材の育成を目指しています。全教員がこの目標を達成するために皆さんの教育に全力であたり、充実した学びの場と機会を提供しています。探求心やチャレンジ精神が旺盛で、高い志を持った皆さんの入学を心待ちにしています。大学は皆さんの輝かしい未来の礎を築く場所です。皆さんが羽ばたく方向は無限に広がっていますので、卒業後は大きく羽ばたいて欲しいと願っています。

ご存知のように、新型コロナウイルスのパンデミックにより教育機関は未曾有の事態となりました。大学病院における診療はもちろんのこと、教育や研究面でも多大な影響を受けています。特に、学部教育では対面授業が密な状況になってしまうこともあり、オンライン授業を余儀なくされました。九州大学では9年前から全学生を対象としたPC必携化を実施していることもあり、オンライン授業も早期に開始することができました。ただし、コミュニケーション不足などのオンライン授業の問題点も多々ありますので、皆さんにとってより充実した教育が、しかも楽しくできるよう、Post & Beyondコロナに適した新たな授業形態の確立に取り組んでいるところです。

最後になりますが、学生の本分は学びであることは間違いありません。ただし、大学生活では幅広く豊かな人間性や社会性を身に付けることも学びの一つです。本学では多くの友人、先輩、後輩、そして師と巡り合うことになると思いますが、課外活動にも積極的に参加して欲しいと思います。全学のサークルで知り合う他学部の学生との交流は人生を豊かに彩りますし、一生の友人もできます。また、歯学部の中にも体育系や文科系のサークルがあります。毎年、全日本歯科学学生体育大会(歯学体)という全国大会などもありますので、経験の有無に関わらず、好きなことにチャレンジしてみてもどうでしょうか? さらに視野を広げ、アルバイトなどを通して社会と十分に触れ合うことも大切です。よく学び、よく遊べる、充実した大学生活が待っていますので、ぜひ本学部への進学を目指して受験勉強を頑張ってください。

I N D E X 目次

歯学部長挨拶	1
入学するまで	3
伊都キャンパス時代	5
病院キャンパス時代-学業編	7
病院キャンパス時代-卒業後	11
研究室紹介	13
OBT研究センター紹介	17
DDR研究センター紹介	19
講座紹介	21
国際交流	22
歯学部サークル紹介	25
同窓会	26



九大歯学部にはどんな學生が求められているのでしょうか。

九州大学歯学部は高度職能人としての歯科醫師を養成することはもちろんですが、歯科医療や歯科医学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍できる優れた人材を育成することを教育理念に掲げています。

歯学部では学力に優れている事はもちろんのこと、九州大学教育憲章に基づく秀でた人間性、社会性、国際性を有し、また医療福祉の面から奉仕精神や倫理観に富む人材を求めています。当学部を希望する受験生の皆さんには以上のような歯学部の基本理念に沿った明確な目的意

識を持っていただくよう希望します。

そのために入学試験では多様な価値観をもった幅広い人材が選抜できるよう、学力を主たる判断基準とした前期日程個別学力検査に加え、優れた学力と共に歯科医療に対する使命感、探究心、創造性、論理的思考力、生命体への関心と深い愛情などの資質をも選抜評価基準に採用した総合評価方式による総合型選抜と学校推薦型選抜を令和4年度入試から実施しています。

各選抜方法による募集人員

- 総合型選抜 : 8名
- 学校推薦型選抜 : 8名
- 一般選抜(前期日程) : 37名

●入試倍率(令和5年度)

- 総合型選抜 2.3倍
- 学校推薦型選抜 2.3倍
- 前期日程 3.8倍



學生選抜のタイムテーブル(令和6年度入学者)

総合型選抜・学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課す)

出願期間:総合型選抜 10月23日~11月2日
:学校推薦型選抜 11月1日~11月10日

総合型選抜

第1次選抜: 11月23日に開催する歯学部講義に対するレポートの評価, 書類選考との総合評価
第2次選抜: 大学入学共通テストの成績

学校推薦型選抜

第1次選抜: 書類選考
第2次選抜: 1月20日(予定)面接, 大学入学共通テストの成績

一般選抜(前期日程)(大学入学共通テストを課す)

出願期間:1月22日~1月31日
試験:2月25日・26日

●歯学部入試科目(令和6年度入試)

学 力 検査等の区分・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								英語のリスニングの利用
	教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴及び公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	
前期日程	国 地歴 公民	国 世B、日B、地理B 現社、倫、政経、 「倫理、政治・経済」 から1	数 理 外 面接	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B 物基・物、化基・化、生基・生から2 英(コⅠ・コⅡ・コⅢ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)、 独、仏から1	大学入学共通テスト	100	50	100	100	100	-	-	450
					個別学力検査等	-	-	250	250	200	-	※	700
					計	100	50	350	350	300	-	-	1,150
総合型選抜	数 理 外	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物、化、生から2 英、独、仏、中、韓から1 (5教科7科目)	その他	総合型選抜 第1次選抜 講義に対するレポート、 提出された書類による選考 第2次選抜 大学入学共通テストの成績 学校推薦型選抜 第1次選抜 提出された書類による選考 第2次選抜 面接、大学入学共通テストの成績	大学入学共通テスト 個別学力検査等								
学校推薦型選抜													

※点数化せず段階評価

総合型選抜合格者の声

総合型選抜合格者(歯学部1年生)からのメッセージです。

- 受験勉強の合間に歯学の勉強もしなければならず大変でしたが、九州大学歯学部合格したいという思いが強くなり、より一層勉強にも集中するようになりました。
- 推薦の対策が二次試験の面接の対策にも繋がるし、自分の将来像を考える良い機会となりました。
- 勉強の隙間時間や移動時間に九州大学で行われている研究分野を考えて、それに対しての自分の考えや知りたいことを考えてメモしていました。
- 二次試験も受けるつもりで勉強を続けることが、総合型選抜を落ち着いて受験するコツだと思います。レポート課題の日は予備日がないので、体調には気をつけてください。
- 試験の前に歯科治療についての本を読みました。歯の基本的な名称を知っておくと、講義も理解しやすかったです。

九州大学歯学部 オープンキャンパスと サマースクール

九州大学歯学部が受験生に贈る最高のイベント オープンキャンパスとサマースクール

サマースクールは歯学部を目指している高校生や受験生に「歯学の広がり」を知ってもらうための企画です。受験勉強の合間に「九州大学歯学部」を体験してみませんか? 令和元年は8月5日(月)に開催されましたが、令和2~4年はオンラインでオープンキャンパスを行いました。今年は**8月7日(月)**に対面型で実施する予定です。



外来棟で診療の現場を見学します



こうやって歯を削ります



実物を使った体験ができます



詳細は歯学部ホームページ URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/>をご覧ください。

伊都キャンパス時代

『口腔の健康から全身の健康に貢献する』 歯科医学の教育・研究および歯科医療を牽引するトップリーダーを育成します！

歯学部学務委員長 兼松 隆
(歯学研究院口腔機能分子科学分野教授 久留米大学附設高等学校卒)

九州大学歯学部は、歯科医学の教育・研究および歯科医療において、総合知で歯科医学・医療を牽引し『口腔の健康から全身の健康に貢献する』グローバル・リーダーの育成を目指しています。

歯学部のカリキュラムポリシーに基づき、自然科学、人文科学、基礎医学、歯科基礎医学、臨床歯学に加え、医療系統合教育や一般医学教育を実践して、次世代の歯科医師・歯科医学研究者に求められる「口腔から全身の健康に貢献する能力」を醸成するための多彩なカリキュラムを提供しています。さらに、総合科目を通して、生涯にわたり学び続ける自己研修能力を育むために、能動学習者(アクティブラーナー)として高度な専門知識と臨床技能を恒久的に維持・発展させることができる歯科医療人の育成教育を実践しています。

6年間の学部教育は、教員や同窓の歯科医師と伴に研修する1年次歯学オリエンテーション(九重研修)に始まり、歯学概論およびアーリーエクスポージャーでは、ワークショップ・グループ学習、大学病院の見学、研究室での研究入門等を通して、歯科医療、歯科医学研究・生命科学研究をいち早く学習し、仲間とのディスカッションを行うことで医療人・研究者に求められるコミュニケーション力を養います。このように、早期に先端の歯科医療や生命科学を体験して、目指すべき皆さんの将来像の形成を促します。歯学専門教育においては、先端歯科医学を深く掘り下げながら学習する講義と実習を通して、歯科医師に必要な知識・技能・態度を磨きます。また、基幹教育で培った能動学習の素養をさらに伸ばし、知識を統合して課題解決を図る能力を習熟させるために、問題解決型学習(Problem-Based Learning)やチーム基盤型学習(Team-Based Learning)などの課題解決型授業を展開しています。さらに、歯学部同窓会の学生会員として、同窓会と協働した生涯研修プログラムに学生時代から参加できます。このように、九州大学歯学部では多彩な教育手法を駆使して、社会の多様なニーズに対応できる歯科医師や歯科医学・生命科学研究者の育成教育を実践することで、歯科医学の教育・研究および歯科医療分野で活躍するグローバル・リーダーの育成を目指します。皆さんも、歯科医学界を牽引するトップリーダーとなるべく、九州大学歯学部で学んでみませんか。



令和5年度 歯学部入学者出身高校

高校名	人数	高校所在地(都道府県)	高校名	人数	高校所在地(都道府県)
大分上野丘	4	大分	須磨学園	1	兵庫
西南学院	4	福岡	高槻	1	大阪
修猷館	3	福岡	高森	1	熊本
ラ・サール	3	鹿児島	滝	1	愛知
熊本	2	熊本	滝川	1	兵庫
甲南	2	鹿児島	筑紫女学園	1	福岡
筑紫丘	2	福岡	東筑	1	福岡
山口	2	山口	徳島文理	1	徳島
旭丘	1	愛知	南山	1	愛知
石山	1	滋賀	ノートルダム清心	1	広島
宇部	1	山口	広島	1	広島
大阪女学院	1	大阪	広島学院	1	広島
海城	1	東京	福岡工業大学附属城東	1	福岡
開邦	1	沖縄	福岡大学附属大濠	1	福岡
加治木	1	鹿児島	宮崎西	1	宮崎
香住丘	1	福岡	明星	1	大阪
岐阜	1	岐阜	明善	1	福岡
熊本学園大学付属	1	熊本	六甲学院	1	兵庫
呉三津田	1	広島	外国の高校	1	
修道	1	広島	合計	53	

基幹教育科目

【基幹教育科目】

1. 基幹教育セミナー 基幹教育セミナー

2. 課題協学科目 課題協学科目

3. 言語文化科目 第1外国語(英語)、第2外国語

4. 文系ディシプリン科目

●必修科目 心理学入門

●選択必修科目

哲学・思想入門、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、現代教育学入門、教育基礎学入門、法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、The Law and politics of International Society

5. 理系ディシプリン科目

●必修科目

入門微分積分Ⅰ・Ⅱ、入門線形代数

I・II、数理統計学、無機物質化学Ⅰ・Ⅱ、有機物質化学Ⅰ・Ⅱ、自然科学総合実験

●選択必修科目

力学基礎、力学概論、電磁気学基礎、電磁気学概論、熱力学基礎、熱力学概論、細胞生物学、生物学概論

6. サイバーセキュリティ科目 サイバーセキュリティ基礎論

7. 健康・スポーツ科目 健康・スポーツ科学演習

8. 総合科目 アカデミック・フロンティアⅠ・Ⅱ

【専攻教育科目】

歯学オリエンテーション、歯学概論1~4

【2年次以降の基幹教育科目】

高年次基幹教育科目
インフォームド・コンセント、薬害、臨床倫理、漢方医薬学

歯学オリエンテーション

1年生は入学後、九重共同研修所にて研修を行います。



伊都キャンパスってどんなところ？

平成21年4月に旧六本松キャンパスは伊都キャンパス(通称 伊都キャン)として福岡市の西部元岡へと完全移転しました。伊都キャンパスは福岡市の中心部天神からバスで約55分のところにあり、敷地面積約245haの広大なキャンパスです。歯学部の1年生は1年間ここで過ごすことになります。



カフェテリア「Qasis」



広々とした構内



九州大学中央図書館



椎木講堂

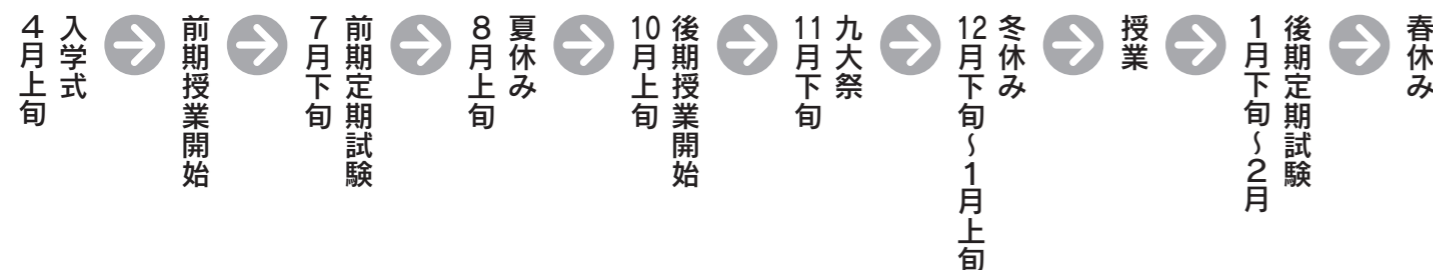


センター1号館(センターゾーン)

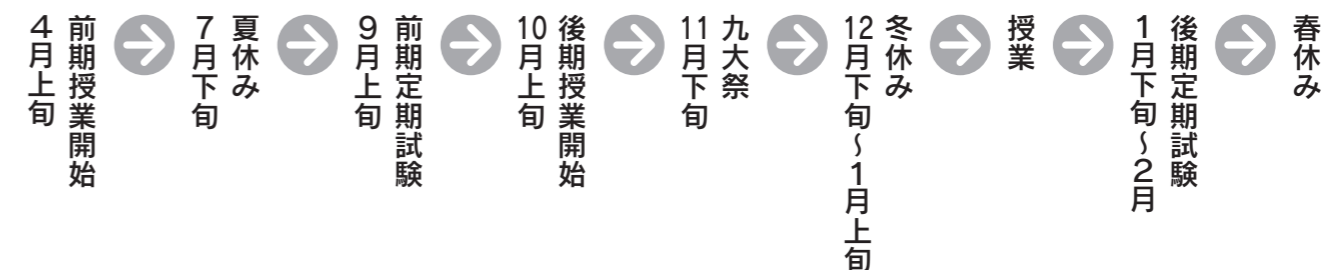


くつろぎのひととき

Schedule [第1学年] 伊都キャンパス



Schedule [第2学年] 病院キャンパス



病院キャンパス時代 — 学業編



九州大学歯学部が目指す教育

- (1) 歯学部教育の基本である優れた歯科医師の養成
- (2) 国内外において活躍する歯科医療・歯科学における教育・研究リーダーの育成



病院キャンパスのシンボル「神の手」



病院外観



病院内を少し探検。

開放感ある通路



活気のある診療室

歯学部では、どんなことを学ぶのだろうか？

九州大学歯学部の学科課程表（令和5年度）

学科目	授業科目
1年次：歯科医学総論	歯学オリエンテーション、歯学概論1・2・3・4
2年次：歯科医学総論	歯学総論1、歯学総論2
口腔基礎常態学	解剖学1・2、解剖学実習1・2、口腔解剖学1・2・3・4、口腔組織学1・2・3、発生学、口腔生理学1・2・3・4、生化学・口腔生化学1・2・3・4
口腔基礎病態学	口腔微生物学
3年次：歯科医学総論	歯学総論3
口腔基礎病態学	病理学1・2・3、口腔病理学1・2、薬理学1・2・3、臨床歯科薬理学、歯科理工学
口腔保健学	小児歯科学1・2・3・4
臨床歯学	歯冠補綴架工義歯学、口腔画像診断学1
関連科目	病態制御学（内科学、外科学など関連医学）
4年次：歯科医学総論	歯学総論4、アーリーエクスポージャー、リサーチエクスポージャー1・2・3
口腔保健学	口腔保健学、環境衛生学、障害者歯科学1・2、歯科矯正診断学、歯科矯正診断学実習、歯科矯正治療学、歯科矯正治療学実習
臨床歯学	医療行動科学1・2・3、歯科保存学1・2・3、歯周病学1、口腔インプラント学、全部床義歯補綴学総論、全部床義歯補綴学各論、部分床義歯補綴学、顎口腔外科学、口腔画像診断学2、歯科麻酔学1・2、歯科全身管理学1・2、高齢者歯科学
医療系統合教育科目	漢方医薬学、インフォームド・コンセント、薬害、臨床倫理、地域包括ケアシステム
5年次：歯科医学総論	歯学総論5、リサーチエクスポージャー4
臨床歯学	歯周病学2・3、顎顔面形成外科学、口腔感染・炎症治療学、口腔腫瘍外科学、歯科臨床予備実習
関連科目	歯科法医学、人類遺伝学
6年次：歯科医学総論	歯学総論6、歯学総論7、統合歯学、プレリサーチ
臨床歯学	歯科臨床実習

体の構造・機能、病気の原因について学んだよ。

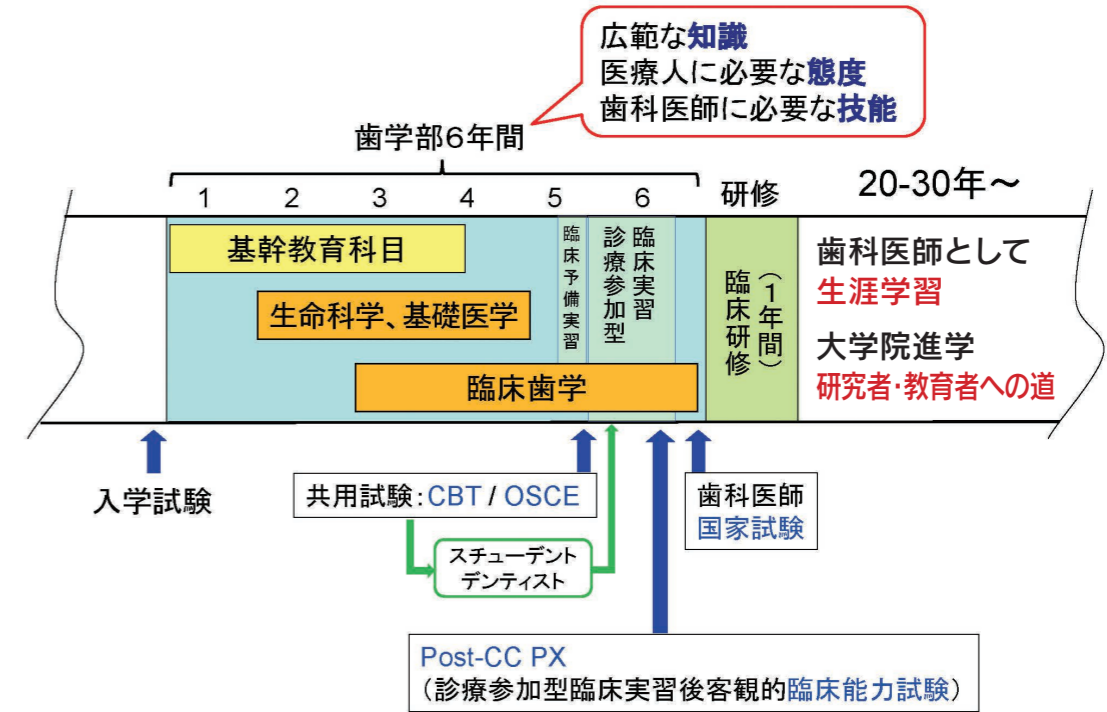
虫歯や歯周病、口や顎の病気のしくみと治療法について学んだよ。

医療面接シミュレーションやグループ学習などを通して医療人としての態度を学ぶよ。

九大病院で、患者さんの治療実習をするよ。

※これまで通年・2学期制であった多くの科目を、学修しやすくなるよう、令和3年度からクォーター（4学期制）科目に改編しました。実施時期や学修目標については、歯学部ホームページに掲載のカリキュラムマップをご覧ください。

九州大学歯学部の学修マップ [概要（令和5年4月時点）]



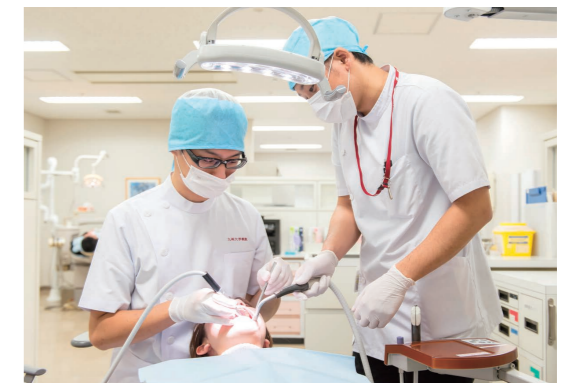
学修マップ(上図)の解説

1年次は、伊都キャンパスで基幹教育科目を履修します。基幹教育では、人文系、理数系、言語文化系科目ほかで高い教養を身につけるとともに、基幹教育セミナーや課題協学科目等を通じて能動的学習を行います。週に1度、歯学部専攻科目「歯学概論」があり、歯学部教員が週替わりで各分野の研究、教育、臨床のトピックを紹介します。秋学期には病院見学実習があります。

2年次からは、病院キャンパスで学びます。解剖学、生理学、生化学などの生命科学、基礎医学の科目に始まり、3年次からは徐々に臨床歯学の科目が実施されます。授業は講義だけでなく実習も多く実施されます。基幹教育は高年次基幹教育科目として2～4次にも一部実施されますが、4年次には、医学部、保健学科、薬学部と合同で医療系統合教育科目が実施されます。そのうち「インフォームドコンセント」では、模擬患者さんにご協力いただき、多職種連携で説明と同意取得を行う実践的な実習も行います。このほかに、4・5年次には、リサーチエクスポージャーで各研究分野に配属され、研究も体験します。

5年次には、臨床実習に進む前の全国共通の試験である共用試験CBT・OSCEが実施されます。CBT (Computer Based Testing) はコンピュータを用いた「知識」に関する客観試験で、OSCE (Objective Structured Clinical Examination) は基本的臨床「技能」と「態度」を評価する試験です。これらCBT・OSCEは令和6年度から公的化され、両方に合格すると「スチューデントデンティスト」として認定を受け、いよいよ診療参加型臨床実習に進みます。診療参加型臨床実習では、実際に患者さんの治療実習も行います（写真参照）。実習の最後には「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-Clinical Clerkship Performance Examination: Post-CC PX）」と呼ばれる実技試験を行い、それまでに身につけた基本的な臨床能力を評価します。そして最後に、歯科医師国家試験を受験します。このように、歯学部では、広範な知識に加えて、医療人に必要な態度、歯科医師に必要な基本的臨床能力を身につけた上で卒業することが求められます。

歯学部卒業後は、1年間の歯科医師臨床研修、そしてその後は、大学院への進学を含め研究、臨床、教育、行政などの様々な方面に進みますが、いずれの場合でも歯科医師として生涯学習が求められます。



歯学部ならではの実践的実習「歯科臨床実習」：スチューデントデンティストとして、実際の患者さんを対象に治療実習を行います。
※患者さんのプライバシー保護のため、スタッフが患者役をしています。

学生からのメッセージ

充実した自分らしい6年間で

歯学部6年生(2022年度) 猪股誠一郎(私立武蔵高等学校卒)

はじめまして、九州大学歯学部歯学科6年生の猪股誠一郎と申します。このパンフレットを読んでいらっしゃるという事は自分の進路に思いを馳せていることだと思います。また、コロナ禍で制限された高校生活を余儀なくされ、大学でこそ自由に自分らしく過ごしたいと考えている方もいらっしゃるのではないでしょうか。そんな皆さんが学生生活を少しでも具体的に思い描ける手助けとなる様に九州大学歯学部の6年間で生活を具体的に話したいと思います。

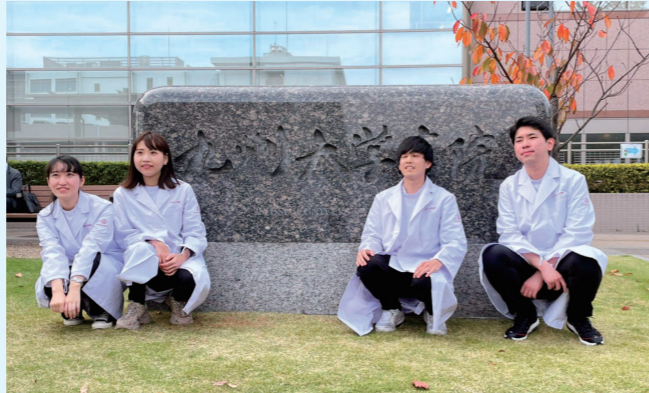
まず1年生では、伊都キャンパスで数学や物理、英語といった授業をはじめ、心理学や芸術など大学ならではの様々な分野の授業を受けます。歯学部だけでなく他学部の学生とも合同で授業を受けるので歯学部以外の友人や留学生との交流を持つことができ、高校までとは全く違う環境で過ごせることにワクワクすると思います。

2年生からはいよいよ病院キャンパスで本格的に歯科に関する授業が始まります。まずは解剖学や生理学といった体の構造・機能、病気の原因について学び、3、4年生になると歯周病学や口腔外科学といった虫歯や歯周病、口や顎の病気のしくみと治療法について学んでいくことになります。始めて学ぶばかりで分からない事も多く不安を感じる事もあるかもしれませんが、友人と助け合いテストを乗り越えていくことで一生の友人を作ることが出来ますし、先生方をはじめ事務の方々も学生の為に良い環境を提供しようと試行錯誤してくださっており、成績が振るわない時も見捨てるのではなく助けようとしてくださる様子を見てきましたので安心して勉強に励むことが出来ると思います。

5年生からは実際に病院で患者さんを相手にした実習が始まります。臨床の現場で勉強する事で今まで学んだ知識が深まりますし、座学とは違った視点で自分の将来について考えることが出来ます。僕はこの臨床実習での日々出来る事や知識が少しずつ増えていった経験が本当に楽しく、特に歯学部に入って良かったと感じた期間でした。

6年生になると国家試験に合格する為に勉強する1年になります。大変な期間ですがこの関門を突破することで晴れて歯科医師としてのスタート地点に立つ事が出来ます。

歯学部は確かに勉強する事が多いですが勉強だけの6年間ではありません。アルバイトや飲み会、趣味など楽しむ時間は十分にあり、総合大学ならではの利点を活かして留学に行く人や学部生の内から研究に臨む人、九州大学内だけでなく他大学の人と交流し学生団体を立ち上げる人もいます。過ごし方は人それぞれです。是非自分らしい大学生活を過ごし充実した6年間にしてくださいね。



忙しい(充実した)臨床実習の合間でホッと一息

学生からのメッセージ

歯学部での充実した6年間で

歯学部6年生(2023年度) 土橋朋永(ノートルダム清心高等学校卒)

口の健康は心と体の原点であり、毎日のオーラルケアが健康な心身を維持するために重要な役割を担っているといえます。私は、より多くの人に、口の健康と心身の健康が密接につながっているということに気づいてもらえるような治療を行う歯科医師になりたいと思い、九州大学歯学部に入りました。

歯が健康で食べ物をしっかりと「噛んで」、「飲み込む」ということは、食べる楽しみを維持することであり、生きる活力となっています。そして、それは人生の楽しみの中でも特に大きな割合を占めています。私は、歯科医師として、消化器・呼吸器の共通の入り口であり、多くの機能を担う「口腔」に専念して取り組み、口腔内の健康を守ることで、人々の健康と命を守っていきたくと思っています。そのために、高学年では、歯科分野だけではなく医学分野も学びつつ、幼児期から老年期までの幅広い年齢層で起こりうる問題に目を向けながら学んでいます。

私は現在5年生で、秋から九州大学病院で治療実習が始まりました。実際に患者さんの診察に参加することで、今まで座学で習った知識を総合的に生かしながら日々学びを深めて行っています。写真は新型コロナウイルスの影響で授業中に相互実習はなくなってしまったのですが、診療後などに学生同士で互いに練習している様子です。マネキン実習で習得したと思っていた技術も相互実習で実践してみると思うようにいかないなど、専門的な技術に対しての気づきもありますが、説明や声掛け、一つひ

とつの細かな心配りなど、患者さん側に立って初めて見えてくることも多くありました。

歯学部は他の学部より少人数で、6年間、毎日一緒に授業を受け、休日にも一緒に遊びに行くように全体の仲も良い学部です。歯学部での勉強は試験も多く、図書館に籠る日も多くあり大変ですが、勉強も遊びも全力で、人生を豊かにしてくれる友人たちと出会えたことはかけがえのない宝物です。

私は、歯学部の勉強の傍ら、教育学部の研究室と健康に関するプロジェクトを動かしたり、医学部生たちとチームで地域医療について研究し、海外まで現地調査に行ったりしていました。このように、大学では自分の考え方や興味次第では色々なことが行えます。自分の得意なことや、興味を伸ばしつつ、楽しみながら勉強を進めてください。皆さんの努力が実を結び、ともに九州大学歯学部で学べる日を楽しみにしています。



口腔内スキャナーで歯型を採っているところ



口腔内の診察をしているところ

学生からのメッセージ

将来も見据えて楽しい学生生活を

九州大学歯学研究院 顎顔面外科学分野 大学院2年生(2023年度) 藤本龍史(愛光高等学校[愛媛県]卒)

九州大学歯学部に興味を持たれた皆様、初めまして。大学院1年生の藤本と申します。まだまだ先の話かも知れませんが、歯学部卒業後の進路について少しお話しできればと思います。

よくある進路についてお話しします。歯学部に入ると、6年間の学部教育が皆さんを待ち受けます。6年間の数えきれなくはないですが、数多くのテストに勝利し、無事歯科医師国家試験をパスされると、歯科医師免許を得ることが出来ます。

残念ながら、免許を取ってもすぐに歯医者さんとして自由に羽ばたくことはできません。1年間(研修する施設によっては2年間)の楽しい研修生活を修了されると、いよいよ歯医者さんとして羽ばたく時がやってきます。

このタイミングで、多くの人の進路が別れてきます。大きく4つあります。①大学院に進学する②大学病院で勤務する③開業医で勤務する④歯医者以外の道へ(公務員など)

私は①の道を選びました。親知らずを抜いたり、口のがんを切除したり、噛み合わせを良くするために顎の骨を切って顎の位置を動かす手術をする口腔外科という分野に所属して、1年目は口腔外科の診療に従事しました。2年日以降は、口腔病理学教室に移動し、がんの研究をしようと計画しています。

実は私は、学部学生時代から、口腔病理学分野の清島保教授、藤井慎介講師の下で研究をかしっていました。先生方のご指導のおかげで、何度か学会発表する機会を得て、何度か賞をいただくこともできました。当時は、研究ってどうやってやるのが興味があり、ただ楽しそうだなという理由で研究室に出入りしていましたが、最近は、特に将来大学院に進学しようと考えている方は、学部学生の時から動き出しておく大学院に進学した際に、研究を始めやすいなど様々なメリットがあると感じるようになりました。実際大学院生になってからは、日本学術振興会特別研究員(DC1)、NSKナカニシ奨学生、次世代研究者挑戦的研究プログラムに採用されるという結果にも繋がりました。

主に研究の話になってしまいましたが、学部学生時代の頑張りは、どの道を選択するにしても、その後の人生にプラスになります。また、歯学部に限らず九州大学の先生方は熱意ある学生さんが大好きで、積極的に応援してくれます。紙面の都合で書ききれませんが、実際、私も他学部の先生方にはとてもお世話になりました。

九州大学歯学部に入られた際には、総合大学である環境を活かし歯科に限らず存分に学び、遊び、楽しんで学生生活を謳歌し歯科医師となった時の糧にさせていただきたいと思っています。皆様のご入学をお待ちしております。

病院キャンパス時代 — 卒業後

研究中の大学院生からのメッセージ

「大学院4年間をふり返って」

インプラント・義歯補綴学分野 研修登録医
松中 健 (AICJ高等学校卒)

九州大学歯学部に興味をもたれているみなさん、こんにちは。九州大学インプラント・義歯補綴学分野の松中と申します。私は九州大学歯学部卒業後、1年間の研修を経て、大学院に進学しました。今回は、学部卒業後の大学院についてお話させていただきます。

歯学部は、6年間の学生生活を送り、国家試験に合格すると、1年間の研修医生活を送ります。その後、開業医で勤務医をしたり、大学病院で働いたり、大学院に進学したりと、様々な選択があります。その中で私は、大学院進学という選択をしました。

みなさんは、大学院と聞くと、どのようなことをイメージするのでしょうか。研究をバリバリしていて、日々試験管と向き合うみたいな生活をイメージされるかと思いますが、もちろんそのようなパターンもあるかとは思いますが、私の大学院生活は違いました。私の所属するインプラント・義歯補綴学分野では、研究もちろんしますが、臨床も行います。大学院進学を拒む一つの因子として、臨床経験ができないと考える人もいます。開業医で働く友達はバリバリ臨床をしていて、自分は院に進むとできないんじゃないかと考えるかもしれません。しかし、そんなことはなく、大学院に進んだとしても臨床をしっかり行うことができ、私たちの科で言うところとしっかり

練習を積み、インプラントを埋入したりと臨床家としてスキルを上げることが出来ます。

また、研究においても、今後の歯科医師生活を向上させるスキルをみつけることができます。例えば、研究を行うにあたり、今わかっている情報を整理する必要があります。情報社会の現代において、正しい情報を取捨選択することはとても大事です。そのスキルを大学院では、上の先生の指導の下で身につけることができます。さらに、スケジュールを管理し、マネージメントをすることも今後の生活に生きてくると思います。そして、研究が進んでいけば、学会等において広い会場で大勢の聴衆を前に自身の研究成果を発表する経験もできます(写真参照)。これは、院に進学しなければなかなか機会がないことだと思います。

私の大学院4年間は、様々な経験をすることができました。研究がうまくいかず辛い時期もありました。しかし、たくさんの人の助けをかりながら、壁を乗り越えることができ、人として成長できたと思います。大学院は、歯科医師としても人としても、成長できる環境だと思います。受験生のみなさん、今後歯学部に入學し進路に悩んだときは、大学院に進学という選択も考えてみてください。



日本口腔インプラント学会での学会発表

●進路(卒業後臨床研修先について)

令和5年3月卒業生の進路は以下の通りです。(4月1日現在)

九州大学病院	19名
その他の大学病院など	17名
その他	11名

●歯科医師国家試験合格率

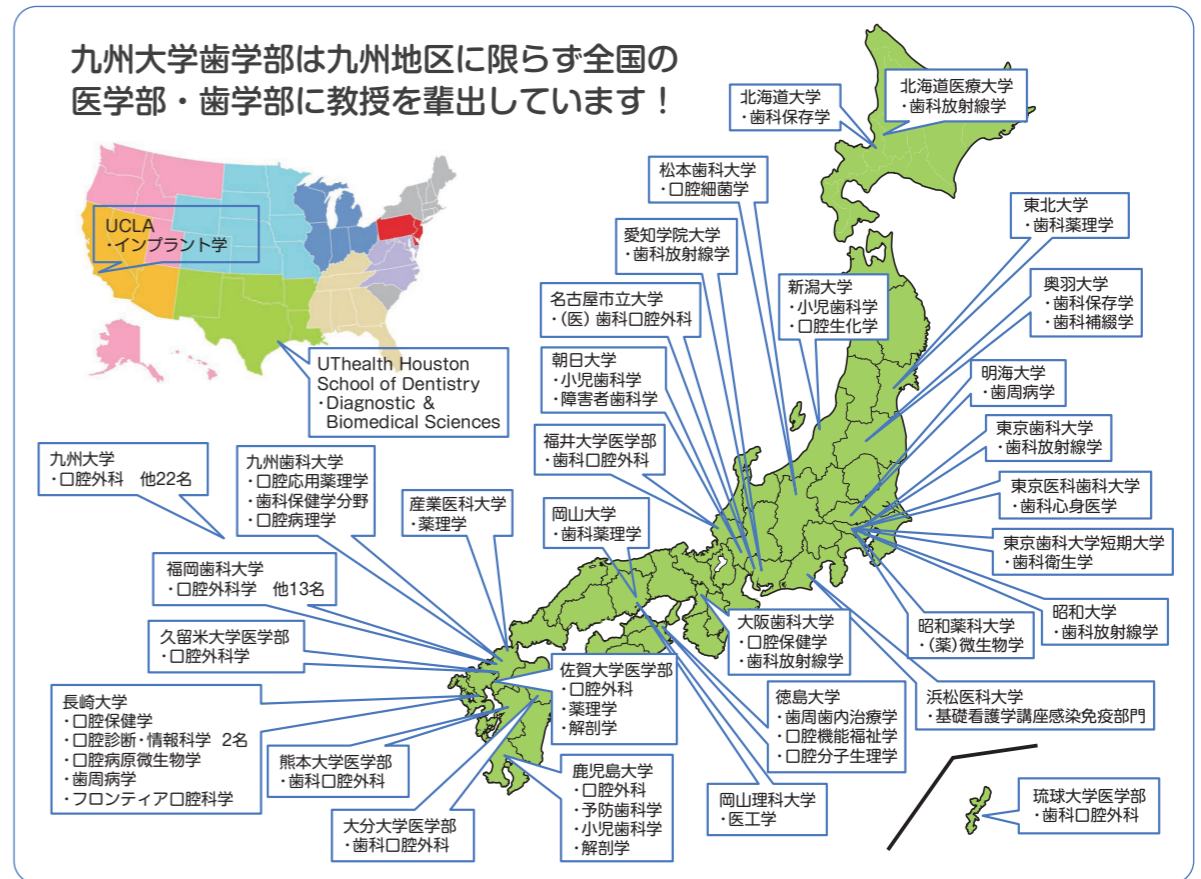
	R5	R4	R3
九州大学	83.8%	82.2%	78.6%
全国平均	63.5%	61.6%	64.6%

卒業後はどんな所で活躍しているのでしょうか？

九州大学歯学部はこれまでに、多くの優れた歯科医師を輩出してきました。

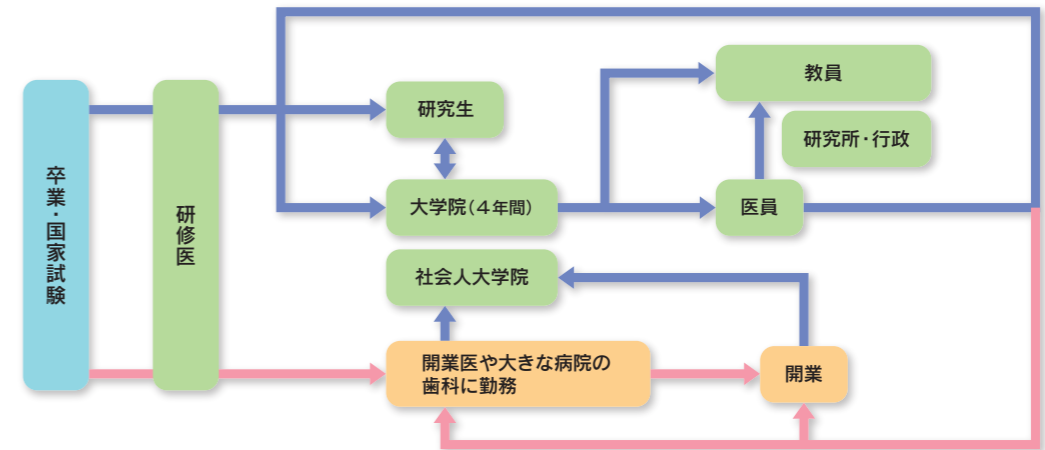
例えば、臨床の最前線で活躍し、地域医療のリーダーとして活躍している卒業生、歯科医学研究において、後輩に指導を行いながら世界で活躍している卒業生、他大学で歯学教育のリーダーとして活躍している卒業生など、さまざまな分野で活躍し社会に貢献しています。

また、九州大学歯学部は九州地区に限らず全国の医学部・歯学部教授を輩出しています。



このような人材と設備の充実した九州大学歯学部で学び、グローバル社会で活躍できる歯科医師や研究者を目指しませんか。

卒後の進路については、おおよそ下の図の通りです。



注：この図がすべてのケースを網羅しているわけではありません。

臨床の前線で活躍する卒業生からのメッセージ

大学病院での歯科医師の仕事

九州大学病院 高齢者歯科・全身管理歯科 助教 井上 良介 (福岡県立筑紫丘高等学校卒)



私の所属している高齢者歯科・全身管理歯科は病気が服用薬剤のために歯科治療を受けにくい患者さんを中心に、医科の診療科と連携を取りながら診療を行っています。歯科を受診するのが怖い人に対して全身麻酔や鎮静法を用いた歯科治療を行います。また全身麻酔での手術や、化学療法・放射線療法などを行う上で口の中の問題に対応し、全身の治療が上手くいくようなお手伝いをするのも重要な仕事です。手術が無事終わり、改めて口から食べ物を摂取できるかどうかの評価やリハビリも行います。歯医者さんの仕事は歯の治療だけをするというイメージが強いですが、九大病院医療スタッフの一員として、日々、いろいろな職種の人たちとチーム医療を行っています。また、口腔機能と認知症に関係する研究も行っています。日本では65歳を超える高齢者が3千6百万人を上回る超高齢社会に突入し、認知症患者が増加することが予測されます。認知症になる前段階の軽度認知症は、対策を取らないとほとんどの人が数年以内に認知症に進行すると言われています。このような方たちの口の機能を調べることで認知症の早期発見につながらないか、歯科が介入することによって認知症への進行を防ぐことができないかというテーマの研究を行っており、高齢社会問題にも歯科から取り組むことができます。歯科医師を目指す受験生の皆さん、このようなやりがいのある仕事を私たちと一緒にやってみませんか。

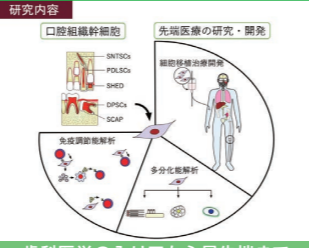
口腔常態制御学講座 (5研究分野)

分子口腔解剖学分野

分野責任者: 山座 孝義 教授

うちの自慢

- 幹細胞による難病治療の開発を展開



研究内容

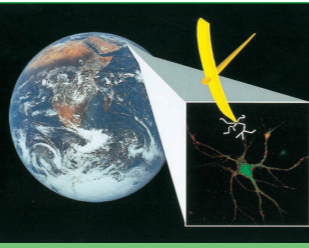
歯科医学の入り口から最先端まで
— 教育と研究で世界の歯科医学に貢献します! —

口腔細胞工学分野

分野責任者: 自見 英治郎 教授

うちの自慢

- 閉経後骨粗鬆症と体重増加を制御する本質的な共通分子メカニズムの解明と治療戦略の開発
- 口腔癌による顎骨浸潤の分子機構の解明で世界を牽引



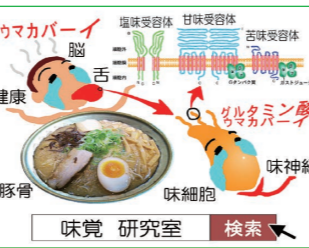
体=細胞のしくみを極めよう、世界を舞台に戦いながら。

口腔機能解析学分野

分野責任者: 重村 憲徳 教授

うちの自慢

- 味覚情報の口腔-脳-腸連関を介した食調節機構の解明で世界をリード



味覚研究室 検索

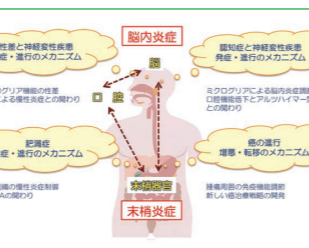
美味しさって何だろう？
味覚の窓から身体の不思議な仕組みを見てみよう

口腔機能分子科学分野

分野責任者: 兼松 隆 教授

うちの自慢

- 口腔と全身をつなぐ炎症研究で世界をリード
- 我々が発見した分子による新たな癌転移メカニズムの研究を展開



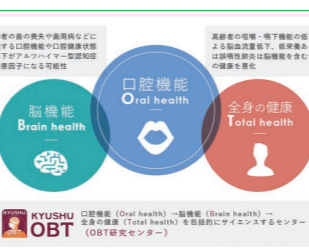
口腔科学の枠を超えて
研究者の一步を踏み出そう

口腔脳機能病態学分野

分野責任者: 自見 英治郎 教授

うちの自慢

- 健全な口腔機能を維持するための戦略的研究
- 口腔機能低下と脳・全身疾患との因果を包括的に理解する研究



KYUSHU OBT 口腔機能 (Oral health) → 脳機能 (Brain health) → 全身の健康 (Total health) を包括的にサイエンス的センター (OBT 研究センター)

心身の健康は口腔から

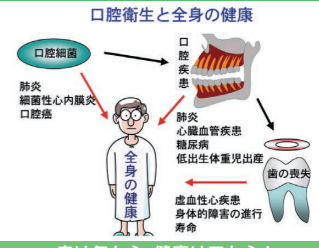
口腔保健推進学講座 (3研究分野)

口腔予防医学分野

分野責任者: 竹下 徹 教授

うちの自慢

- 疫学アプローチによる臨床歯科医学エビデンス構築の豊富な実績
- 口腔マイクロバイオーム研究で世界をリード



口腔衛生と全身の健康


病は気から、健康は口から！
だから今予防歯科

小児口腔医学分野

分野責任者: 福本 敏 教授

うちの自慢

- 小児・障がい児(者)の口腔疾患の治療と予防研究で世界を牽引
- 口腔組織を利用した再生医学研究で世界をリード



抜けてしまう乳歯...
活用できないかな？

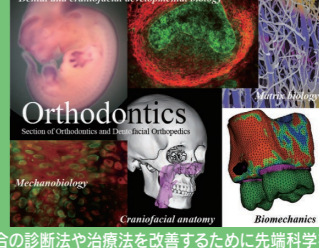
健康な乳歯は美しい永久歯の源だよ。
健康長寿に貢献できる歯科医師を目指そう。

歯科矯正学分野

分野責任者: 高橋 一郎 教授

うちの自慢

- 不正咬合治療の未来を切り拓き、患者さんの健康と笑顔に貢献する研究で我が国をリード



不正咬合の診断法や治療法を改善するために先端科学を応用し、
未来の患者さんの役に立つ研究を展開しています。

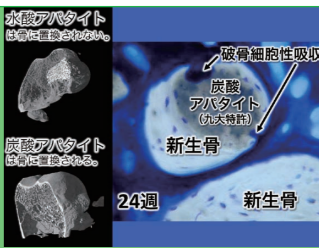
口腔機能修復学講座 (5研究分野)

生体材料学分野

分野責任者: 石川 邦夫 教授

うちの自慢

- 世界初、骨組成の炭酸アパタイト人工骨置換材の開発・実用化に成功
- 世界初、ポリエーテルエーテルケトンへの骨伝導性付与に成功
- 世界初、多孔体形成セメントの開発に成功



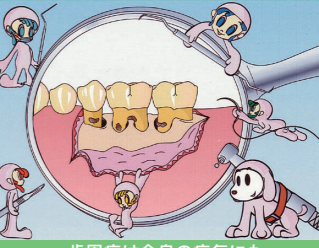
九州大学が開発した炭酸アパタイトは
骨に直換される新しい材料です。

歯周病学分野

分野責任者: 西村 英紀 教授

うちの自慢

- 歯周医学のフロントランナー
- オンリーワンの炎症/再生研究



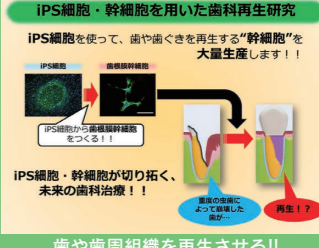
歯周病は全身の病気にも
影響を与えているんだよ。

歯科保存学分野

分野責任者: 前田 英史 教授

うちの自慢

- 歯の保存と再生の研究で世界をリード



iPS細胞・幹細胞を用いた歯科再生研究

iPS細胞を使って、歯や歯ぐきを再生する「幹細胞」を大量生産します！！

iPS細胞・幹細胞が切り拓く、
未来の歯科治療！！

歯や歯周組織を再生させる!!
先進的治療で歯をできるだけ保存する!!

クラウンブリッジ補綴学分野

分野責任者: 鮎川 保則 教授



うちの自慢

- 口腔機能の改善に寄与できる歯科臨床と研究
- 安全・安心なインプラント治療のシステム構築



より良い歯科治療でより良い人生を

インプラント・義歯補綴学分野

分野責任者: 鮎川 保則 教授



うちの自慢

- インプラントの生体適合性向上に関する研究
- 痛くない、噛める、食べられる入れ歯作りの研究



生涯、美味しく食べるために私たちができること!

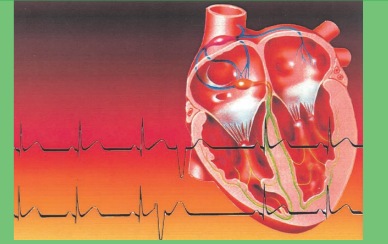
歯科麻酔学分野

分野責任者: 横山 武志 教授



うちの自慢

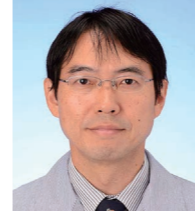
- 周術期の糖代謝とインスリン抵抗性に関する研究で我が国をリード
- 独自の歯科治療中の心停止に対する対処方法がヨーロッパ蘇生評議会ガイドラインに



身体の状態を把握し、その変化に対応できる
歯科医師 *** それが歯科麻酔科医

高齢者歯科学・全身管理歯科学分野

分野責任者: 柏崎 晴彦 教授



うちの自慢

- 超高齢社会のニーズに対応する臨床研究で世界をリード



Dentistry is a Work of Love. (思想家 内村鑑三氏筆)
歯科は愛の仕事である。

口腔顎顔面病態学講座 (6 研究分野)

口腔病理学分野

分野責任者: 清島 保 教授



うちの自慢

- 歯と歯周組織の再生療法を目指した遺伝子学的および分子生物学的研究の展開
- 発生過程と腫瘍形成に共通する分子基盤を解明するための革新的アプローチ



「歯の再生」、「歯周組織の老化」それから「口腔癌」に関する研究を行っています。

総合歯科学講座 (2 研究分野)

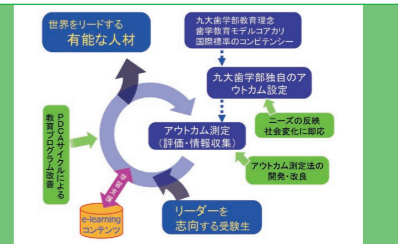
歯科医学教育学分野

分野責任者: 築山 能大 教授



うちの自慢

- 研究・臨床・教育のリーダーを養成するため、課題解決型の教育を展開
- 生涯学び続ける「アクティブラーナー」を養成



九大歯学部モデル「アウトカムベース教育プログラム」の概念図

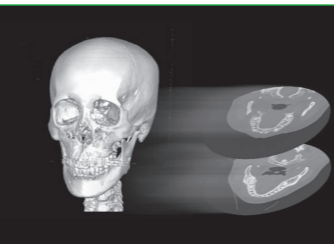
口腔画像情報科学分野

分野責任者: 吉浦 一紀 教授



うちの自慢

- 顎顔面疾患の新しい画像診断基準の作成に関する研究で世界をリード
- 画像情報処理理論の研究にて我が国をリード



あなたの真実の姿がここに...

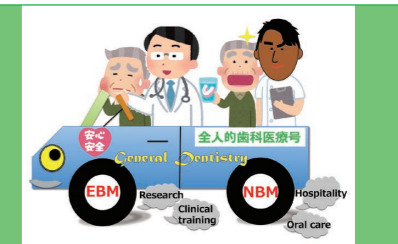
総合診療歯科学分野

分野責任者: 和田 尚久 教授



うちの自慢

- 生活習慣病や全身疾患に関連した歯科的アプローチや全人的歯科医療に関する研究を幅広く展開



患者さんの幸せな人生のための「快適なお口」への水先案内人育成を目指して、臨床、教育、研究を行っています!

顎顔面腫瘍制御学分野

分野責任者: 川野 真太郎 教授



うちの自慢

- 口腔腫瘍などの難治性口腔疾患の病因・病態を解明し、新規治療法開発への橋渡しとなる研究を展開



九大世界のその名と輝け、見よ我が教室新人群れたり
—北原白秋作詞教室歌より

歯科先端医療評価・開発学講座 (寄附講座)

歯科先端医療評価・開発学講座

講座責任者: 熱田 生 准教授



うちの自慢

- 新しい歯科材料の良さをどこよりも早く医療の現場に届ける研究



患者さんの安全のために、医療従事者の便利のために
—生懸命研究しています!

口腔顎顔面外科学分野

分野責任者: 川野 真太郎 教授



うちの自慢

- 口唇口蓋裂の治療研究とアジアでの医療支援を通じて、アジア諸国の発展に寄与



口腔外科は君を、
哲学者か生物学者か彫刻家に変身させるだろう。

歯学の強みを生かした研究で国民のQOLの向上を目指す

OBT研究センター

Oral health・Brain health・Total health (OBT)研究センターは、平成28年度に口の健康が脳の活性化を導き、全身の健康へ寄与することを包括的にサイエンスする研究センターとして設置されました。OBT研究センターは歯学研究院でキラリと光る若手・中堅層を分野ヒエラルキーから抜き出し、Principal Investigator (PI)として独立させ、各自の研究をより発展させることを目指しています。令和元年に新たに准教授1名を迎え、OBT研究センターを統括する教授1名のほか、准教授5名、講師1名、助教2名の計9名が所属しています。



主な研究内容

1. iPS細胞を用いた歯周組織再生

歯根膜は、歯の植立維持および咬合圧感受容において主要な役割を有し、咀嚼機能の維持に必須の組織です。歯根膜が不可逆性のダメージを受けた場合、これを再生する効果的な方法はいまだ確立されていません。最近、ヒト歯根膜細胞の細胞外基質を用いてヒト皮膚由来のiPS細胞から歯根膜幹細胞様細胞を樹立することに成功しました。そこで、幹細胞を用いた新規歯根膜再生療法を確立することで歯の寿命ひいては健康寿命の増進を目指します。

2. 唾液腺異常の分子基盤

シェーグレン症候群やIgG4関連唾液腺炎などの唾液腺疾患は、唾液分泌が低下し、口腔粘膜疾患の増加を引き起こすだけでなく、摂食嚥下障害により誤嚥性肺炎を招くことがあります。しかし、その治療法としては唾液分泌促進薬などの対症療法しかなく、根治的な治療法は存在しません。そこで、それらの唾液腺疾患における唾液腺障害のメカニズムを解明することにより、新たな標的分子治療法の確立を目指します。

3. 口腔マイクロバイオームと健康との関連の解明

口腔は膨大な数の細菌、真菌、ウイルス等が複雑に作用し合いながら共存する一つの微生物生態系です。このような環境で発症するう蝕や歯周炎をはじめとする口腔感染症の克服には、直接疾患に関わる病原微生物だけでなく、微生物群集の全体像(マイクロバイオーム)のシステムとしての理解が不可欠です。大規模な被験者集団から採取した口腔微生物群集検体を解析し、データサイエンスアプローチを駆使して口腔マイクロバイオームと健康との関連を明らかにし、「健康な口腔マイクロバイオーム」の育成と誘導を基盤とした新たな口腔健康管理アプローチの確立を目指しています。

4. 甘味感受性調節に関わる分子・生理基盤の解明

5つの基本味(甘、塩、酸、苦、うま味)のうち、甘味は生体活動にとって必要不可欠なエネルギー源のシグナルであり、肥満や生活習慣病とも密接にリンクします。これまでに甘味感受性の促進および抑制機構について明らかにしてきました。甘味感受性調節に関わる分子・生理基盤の全容を解明することは肥満や生活習慣病の予防に繋がることが期待されています。

5. アルツハイマー型認知症に性差が生じるメカニズムの解明

アルツハイマー型認知症は女性に多くみられ、その患者数は男性の約2倍であることが知られています。しかし、そのメカニズムはまだわかっていません。慢性炎症(肥満、歯周病など)、閉経や加齢による性ホルモンの変化など、生体恒常性が破綻したときに、脳内の免疫応答の性差がアルツハイマー型認知症発症・進展の性差となって現れるのではないかと考えて研究を行っています。性差が生じるメカニズムを明らかにすることで、より個別性の高い予防戦略の提案と、新しい治療薬開発のきっかけとなることを期待されています。

6. 歯周病のアルツハイマー病への関与メカニズム

重度歯周病の罹患は認知機能低下と正相関し、歯周病菌のPorphyromonas gingivalis (Pg) 菌の内毒素LPSが認知症の7割を占めるアルツハイマー病患者の脳内に検出されています。我々はPg菌のアルツハイマー病への関与メカニズムの解明に取り組んでおり、これまでPg菌とそのLPSがアルツハイマー病脳病態を誘発し促進する、全身炎症を増大させる、全身でアミロイドβ産生を誘導する、全身のアミロイドβを脳内輸入させるといった多面的にアルツハイマー病の誘発と病態進行に関与することを明らかにしてきました。歯周病のアルツハイマー病への関与機序を究明し、認知症予防のため有効な情報発信が期待されています。

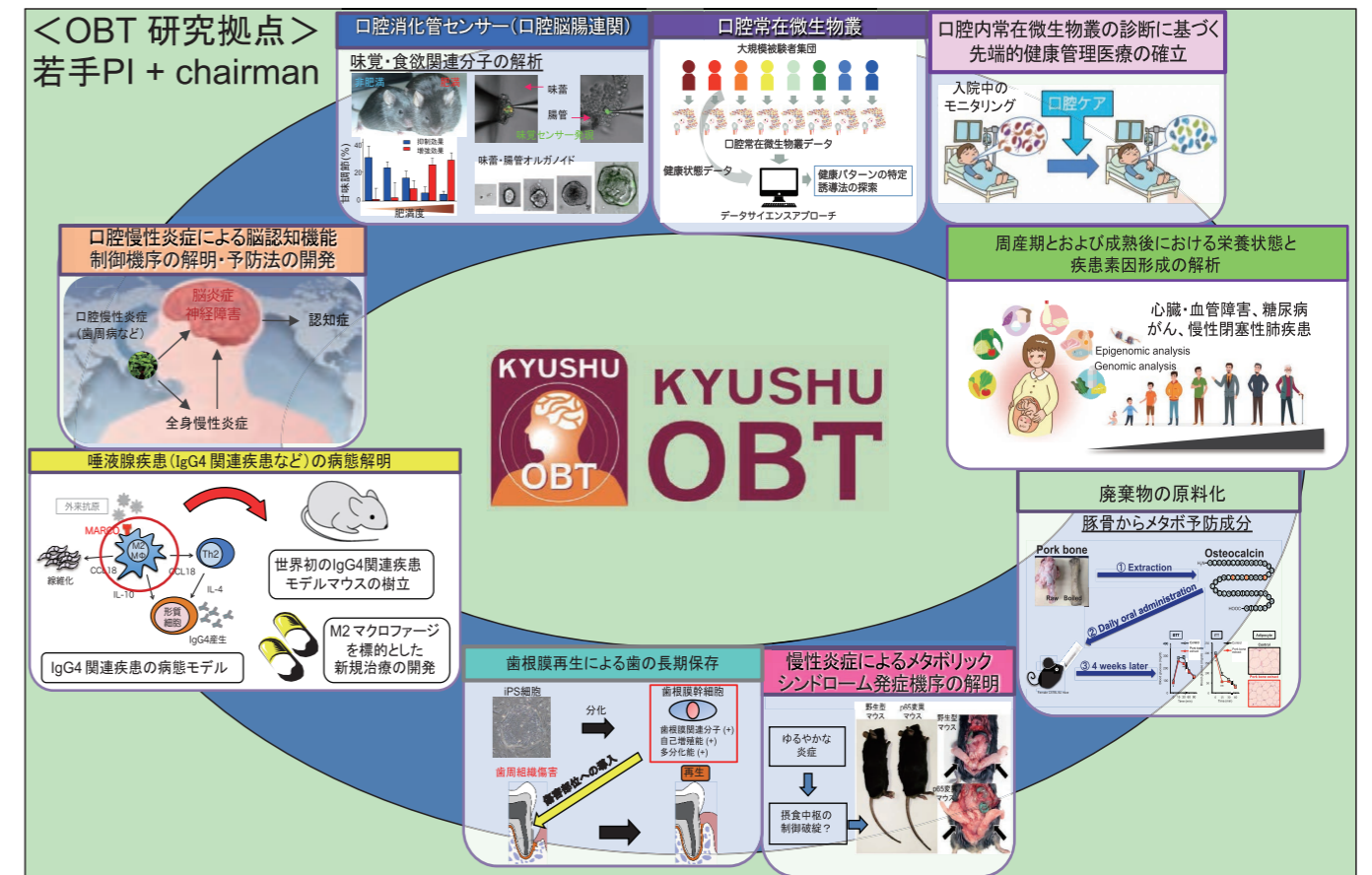
7. 妊娠母体の栄養状態による次世代生活習慣病発症メカニズムの解明

超高齢社会を迎えた我が国では、「口腔機能の健康」と「適切な食生活と栄養摂取」が健康寿命延伸とQOL向上のために重要視されています。従来、病気の原因は、主に遺伝や出生後の環境にあると考えられてきましたが、出生前(妊娠母体)の栄養状態も、子の病気の発症に影響を及ぼすことが分かってきました。そこで、研究チームでは、妊娠母体が摂取する各種栄養素やその代謝産物が、子の各種生活習慣病の発症や進行に及ぼす影響を追究しています。

8. 口腔機能が全身の健康状態に与える影響の検討

咬むことや飲み込む機能が回復することは歯科医師にとっての喜びです。しかしながら、これらの機能は年齢や病気などの影響により、低下することがあります。そこで、病院の患者さんや地域にお住いの住民の方を対象に、口腔機能を評価し、それらが認知機能や運動機能にどのように関連しているのかを調査しています。さらには、口腔機能を改善させるアプリケーションソフトの開発をしており、口腔機能に着目した介護予防法の確立を目指しています。

KYUSHU UNIVERSITY 取組内容の概要及び事業達成による成果と、その波及効果等



口腔組織の発生を理解し再生医療を先導する

DDR研究センター

近年の急速な医学研究の発展により、再生医療等の医療技術が開発され、臨床に応用されるようになってきました。歯科においても齲蝕や歯周病の病態解明や治療技術の開発、予防医学の推進が積極的に行われ、これら疾患がコントロール可能な状況になってきました。しかし超高齢化社会においては、高齢者の口腔機能低下や機能崩壊（オーラルフレイル）が問題となり、これらが誤嚥性肺炎、脳血管疾患、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の発症に関与することが明らかになってきました。そこで失われた口腔機能を回復する目的で、生体内に存在する組織幹細胞と人工生体材料を組み合わせた再生医療技術の開発、さらに組織幹細胞を利用した疾患モデルの作出による治療法開発、産学官連携による人材育成を目的とし、歯学研究院では歯科発生再生研究 (Dento-craniofacial Development and Regeneration research) センターを令和3年度に設置し、世界最先端の教育・研究・医療に基づくイノベーションの創出を目指します。



主な研究内容

1. 歯髄由来組織幹細胞(歯髄幹細胞)の大量生産技術の開発

歯はエナメル質、象牙質、セメント質といった硬組織と歯髄と呼ばれる軟組織によって構成されています。歯髄の中の約0.1-0.5%程度の組織幹細胞と呼ばれる細胞が存在し、この細胞は神経を作る細胞、骨を作る細胞、脂肪を作る細胞など、様々な細胞に分化することができることから、再生医療に利用可能な細胞として注目されています。しかしながら含まれる細胞がそれほど多くないことから、効率良い細胞精製の開発や人工的に組織幹細胞を誘導する技術の開発に取り組んでいます。大量生産が可能になることで、1つの歯から得られる組織幹細胞で、多くの患者の治療に応用することができます。

2. 歯髄幹細胞を用いた全身疾患治療法の開発

歯髄に存在する組織幹細胞である歯髄幹細胞は、各種細胞に分化するのみならず、免疫反応の調整にも大きく関わっています。また細胞の死に関しても、それを抑制する効果も発見され、一つの細胞が様々な機能を有していることがわかってきました。マウスなどの動物モデルにおいては、脳梗塞や脊髄損傷などにおいて歯髄幹細胞を疾患部位へ注入することで、これら疾患の症状を改善します。また肝臓の機能障害や腸の蠕動運動障害を示す疾患においても、歯髄幹細胞を用いることで、これら疾患の治療に応用できる可能性が出てきました。このように歯髄幹細胞を様々な疾患へ治療に応用するために基礎研究を実施しています。また歯髄幹細胞の多分化能を利用し、様々な全身疾患の病態を歯髄幹細胞を用いて試験管内で再現することで、病態の発症原因や治療薬剤の探索に応用しています。

3. 各種器官構築技術の開発

再生医療の最終ゴールは、必要な器官を丸ごと再生することです。歯科においては口腔内に存在する歯や唾液を産生する唾液腺を再生することができれば、歯を失っても歯を再生し、唾液分泌機能を

を改善することで、摂食や嚥下といった口腔機能を回復させることができます。また歯や唾液腺の発生は、毛や肝臓、肺、腎臓等と共通の発生メカニズムを有することから、歯の器官構築技術の開発は、多くの器官形成に応用可能な技術となります。そこで細胞の3次元構築技術を用いて、歯の人工的な誘導技術の開発を行っています。

4. 歯の発生過程に重要な遺伝子群の網羅的解析

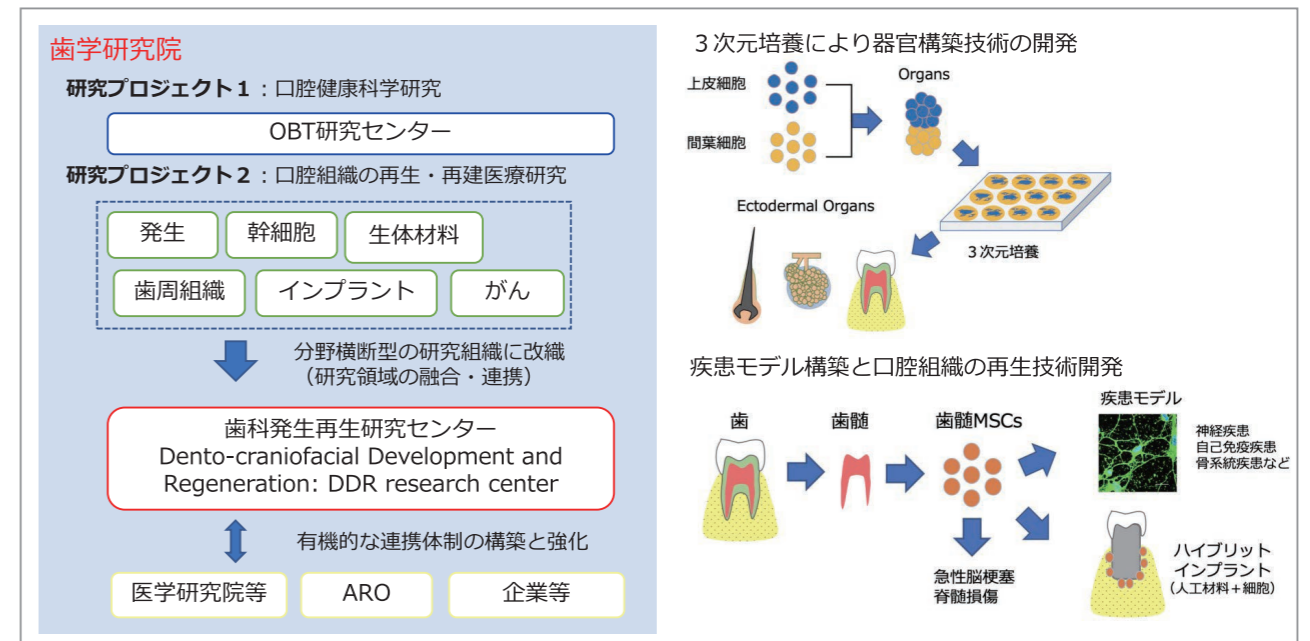
歯を再生させるためには、歯がどのようにして形成されるのかしっかり理解する必要があります。次世代シーケンサー等の革新的な分子生物学的技術の発展により、歯を構築する一つの細胞が、どのような遺伝子を発現しているかを時空間的に網羅的に把握できるようになってきました。また個々の遺伝子がどのような役割を演じているかを知ることも重要です。歯に特徴的に発現する遺伝子の機能解析により、歯を構成する細胞群の分化メカニズムを詳細検討しています。

5. iPS細胞等を用いた歯の再生技術の開発

iPS細胞は、体を構成する全ての細胞に分化可能な万能細胞です。歯がどのようにできるのかということ明らかにしていく過程で、歯の発生に重要な分子を見つけ出し、その分子の機能を制御することで、iPS細胞から歯の形成細胞であるエナメル芽細胞(エナメル質を作る細胞)、象牙芽細胞(象牙質を作る細胞)を人工的に誘導する技術を開発しました。またこれら歯を作る細胞を組み合わせることで、iPS細胞から歯を作ることも可能になっています。しかし実際に臨床に応用するためには、できた歯の安全性の確保、歯の大きさや形の制御が必要になってきます。より正確で確実な歯の再生技術の開発に取り組んでいます。

6. 新規生体材料を用いた歯周組織再生

歯周病は、歯を支える歯槽骨の破壊を伴う疾患であり、支える骨の喪失により歯が脱落します。またそこにインプラントなどで人工的な歯を再建する場合にも、失われた骨を再生することは極めて重要です。これまで多くの人工骨補填材が開発されてきましたが、生体の骨と完全に類似のものを作るには至っていません。そこで生体の骨の特徴を理解しながら、安価で効率的に骨を再生する材料の開発に取り組むとともに、生体親和性の高いインプラント体についても企業と連携しながら開発に取り組んでいます。



『ゆりかごから墓場まで』

地域住民が安全・安心に暮らせる地域医療を支える口腔医療人の育成を目指します

歯学研究院 口腔医療連携学分野、高齢者歯科学・全身管理歯科学分野 講師 山添淳一（兵庫県立星陵高等学校卒）

口腔医療連携学分野では、口腔機能→全身の健康→患者の人生の幸福→地域福祉まで診る歯科口腔医療について追求し、包括的な医療サービスを行うため多職種連携チーム医療に関する臨床、教育、研究に取り組みます。

本邦は諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行しており、国民の医療や介護の需要がますます増加することが見込まれます。さらに、近年では日本各地で災害が多発しており、各地域で災害に強い地域作りが重要になっています。

この様な状況の中、人間の尊厳の保持と安全・安心の自立生活の支援の目的の元、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、口腔医療連携学分野は地域包括ケアシステムの中で活躍する研究者、口腔医療人を育成します。特に災害時にはスムーズに多職種と連携し、被災地域の復興に寄与できる災害歯科医療人を育成し、また、災害時の身元確認にも貢献できるよう、医学研究院法医学分野と連携し、法歯学分野の教育、研究にも取り組みます。



『安心して医療が受けられる歯科材料の開発を目指して』

患者と企業と歯科医療をつなぐ存在に…

歯学研究院 歯科先端医療評価・開発学講座 准教授 熱田 生（長崎県立長崎北陽台高等学校卒）

患者さんが歯科治療に求めるものは、「痛くない」「噛める」「きれい」「はずれない」「壊れない」はもちろんのこと、近年ではさらに「より美しくなりたい」「より美味しく食べたい」そしてその状態を「より長く続けたい」とそのハードルは確実に上がっています。

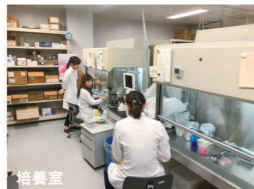
本講座では、すでに販売されている歯科材料や広まっている医療技術を改めて客観的に評価、改善し、さらに患者さんだけでなく術者のニーズに応える歯科製品を、企業と連携しつつ開発し、医療現場へ提供することを目指しています。

講座開設から4年が経ちました。現在もジーシー株式会社などの企業や他大学などと連携し、より良い製品と新しい検査方法の開発のため日々研究を進めております。



我々の研究風景

歯科製品の評価・開発のため日々頑張っています！



留学生からのメッセージ

Greetings future Kyushu University students!! (将来の九州大学の学生の皆さんへ)

私はNaati Fakatavaと申します。太平洋に浮かぶ小さな島国TONGA、またの名をフレンドリーアイランドの出身です。私は2019年から2023年まで歯学研究院総合診療歯科学分野の博士課程で研究をしました。

私は、南太平洋医師会のメンバーとしてトンガを訪れた日本の歯科医師と仕事をする機会があり、彼らと親密な関係を築いたことで、日本でさらに研究を進めることに興味を持つようになりました。福岡に住む仲間から福岡を勧められ、福岡・九州大学について調べたところ、大学のウェブサイトで様々なプログラムが提供されていること、そして実際に福岡は美しく、人々がとても親切であることから、九州大学を志望しました。

私の研究テーマは、歯周組織を維持するための重要な組織である歯根膜で発現する遺伝子であるACTA2に焦点を当て、その機能を調べることでした。研究の結果、ACTA2がSmad2/3経路を介してコラーゲン産生や歯周病に関連する遺伝子の発現に関与していることを見いだしました。この結果は、ACTA2が歯根膜で重要な役割を果たしており、今後、歯根膜の維持や再生などへの関与についてさらに研究が必要であることを示唆しています。私は、今までやったことのない細胞培養など、多くの実験を行いました。細胞を培養し、様々な条件下で細胞の挙動を研究することは大変でしたが、歯周病研究の分野でとても有意義な成果を得ることができました。これはまさに、私が九州大学で培い、学んだ最高の経験と成果です。受験生にとっては少し先の話にはなるかも知れませんが、私は、将来の研究を成し遂げ、発展させるための大学として九州大学を強く推薦します。

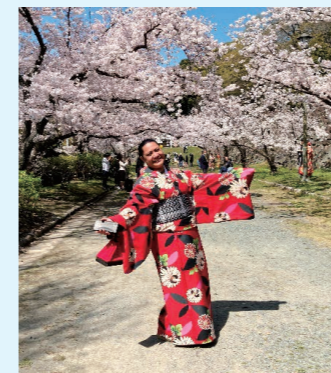
九州大学での4年間は、修学プログラムそのものだけでなく、一緒に働く機会を得た仲間から様々な面で影響を受けました。研究室での仕事、新しい環境、文化に適應することは、私にとっては挑戦でしたが、指導教員からの熱心な指導や同僚からのサポート、そして和田教授からの的確な助言・指導により、私が直面した多くの困難を克服することができました。九州大学で過ごした博士課程の4年間は、私に忍耐力、計画性、そして人と良い関係を築くことを教えてくれました。賢者が「人は孤立して生きるものではない」と言うように、同僚や他の分野の先生方と常に協力し合うことで、私は努力の重要性と人との関係を築くことの大切さを経験し、それで居心地がよくなり、充実した大学院生活を過ごす励みになりました。



指導教員の和田教授、御手洗助教と一緒に



口腔総合診療科医局員との集合写真



満開の桜の下で



博士号を取得し和田教授と一緒に



御手洗助教と民族衣装で

帰国後は、九州大学で学んだことを職場の同僚と共有し、励まし合い、より良い歯科医療体制を構築していきたいと考えています。このように、私は九州大学で貴重な経験をしましたので、学生の皆さんには九州大学で学ぶことをお勧めします。

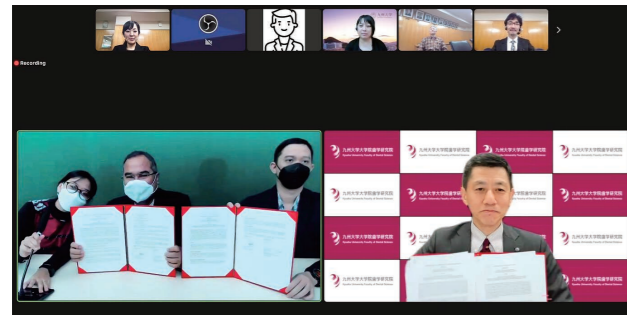
広がる国際交流

2021年4月に、歯学研究院に国際推進室が設置されました。この組織は、教員と事務職員で構成されており、部局内および大学全体の国際頭脳循環を活性化することを目的として、様々な活動をしています。

国際推進室の主な活動・役割は以下の通りです

1. 海外協定校の拡充

これまでの協定校に加え、最近、インドネシアのAIRLANGGA大学(学術交流協定及び学生交流協定、2022年)と、韓国の延世大学と(博士課程ダブル・ディグリー協定、2023年)が新たな協定校に加わりました。AIRLANGGA大学、延世大学は、それぞれの国における最難関大学のひとつです。特に、延世大学との博士課程ダブル・ディグリー協定の締結では、条件を満たせば、九州大学と延世大学の博士号を両方取得することが可能となり、当学府のグローバル人材育成がさらに加速することが期待されます。また、当学部・学府では、九州大学J-MENAオフィスや、トルコ・アンカラオフィスと緊密な連携をとりながら、中東地域の大学との国際連携の可能性について活発な協議を行っています。



AIRLANGGA大学との調印式



延世大学との調印式

2. 留学生のリクルート及び入国後のサポート

当学部・学府の魅力をより多くの留学生に発信するために、オンラインを活用した留学フェアに積極的に参加しています。留学フェアでは、出願方法や学費などの詳しい説明だけでなく、教員や在学中留学生との交流も可能です。また、当学府では、文部科学省の「国費優先配置」プログラムに採択されており、中東・北アフリカからの留学生を積極的に受入れています。

また、国際推進室では、サポーター制度(学生による留学生来日初期の日常生活支援プログラム)と連携して、来日前後の留学生のサポートも行っています。サポーター学生は、留学生の新生活のセットアップ(役所や銀行での手続きなど)を手助けします。このような制度の下で、当学部・学府での学生同士の異文化交流が自然に育まれています。



トルコの大学生向けの日本留学フェア



中東の学生向けの日本留学フェア



サポーターのみなさん

3. 日本人学生の海外留学促進

2023年4月現在、九州大学は34か国の141大学と大学間協定を締結しています。さらに、歯学部では、4つの大学と部局間交流協定を締結しています。当学部・学府の学生は、それら協定の下で、短期間(数週間~1か月)あるいは長期間(1学期~1年以内)、安心して充実した海外留学を経験するチャンスに恵まれています。留学期間中は在学扱いとなり、九州大学に授業料を納めていれば、留学先大学では授業料を徴収されません。また、留学先の大学で取得した単位が、九州大学の単位として認められることもあります。

歯学部生に人気の高い海外留学体験のひとつに、釜山大学歯学部との交流が挙げられます。ここ数年、コロナで中断していた交流が、2023年から再開されることになっており、2023年度は、釜山大学歯学部の教員と学生約15名が当学部・学府で2~3日滞ります。また、次年度は当学部の教員と学生が釜山大学を訪問します。



釜山大学訪問



釜山大学訪問

4. 同窓生などを通じた新規国際ネットワークの構築

当学部・学府では、人と人との繋がりをとても大切に思っています。1988~2010年JICA主催歯学教育プログラムでは、合計248人の外国人歯科医師研修生が当学部を訪れました。歯学国際推進室では、このJICA歯学教育プログラム参加者や帰国留学生などとの持続的な交流を願い、このニュースレター(日英二か国語、年4回発行)を作成し、配信しています。また、2022年に当学部・学府のプロモーションビデオ(日英二か国語)を作成し、当学部・学府のホームページと九州大学のYouTubeに掲載しており、世界中から当学部・学府の情報収集が可能となりました。英語版の歯学部・歯学府紹介パンフレットも現在制作中です(2023年4月発行予定)。



プロモーションビデオ撮影中



プロモーションビデオに協力してくれた留学生



日英のニュースレター

このように、九州大学歯学部では、将来、国内外でグローバルに活躍する人材を歓迎しています。皆様の入学をお待ちしています!

当学部と学府のプロモーションビデオは右記のQRコードにアクセスすることで見ることができます!



歯学部サークル紹介

同窓会



野球部



ラグビー部



テニス部



サッカー部



バスケットボール部



バドミントン部



剣道部



スキー部



ゴルフ部



馬出吹奏楽部

コロナ禍における歯学部同窓会活動について

九州大学歯学部同窓会副会長 白重豊英 (福岡県立筑紫丘高等学校卒)

歯学部同窓会では、毎年4月の第4週日曜日に春季学術講演会を200~300名の来場者を集め学術講演会を行っています。また、5月、7月、9月、11月の第4水曜日の19時半より2時間、症例検討セミナーを行い、診療に関する情報交換を行っています。さらに、診療技能のさらなる向上を図るため、コンポジットレジン充填*セミナー(前歯編、臼歯編)、口腔外科セミナー(基礎編、臨床編)、小児歯科実習セミナーなどの実習付きセミナーを実施しています。春季学術講演会および症例検討セミナーは、新型コロナのため会場とWebのハイブリッド形式で行っています。当日の講演を編集して後日オンデマンド配信をして何度も視聴できるようにしています。このハイブリッド形式の講演により、遠方の先生方や、当日所用のため受講できない先生方も受講できるようになり、受講生が増える結果となりました。同窓会の色々な分野にたけた先生方の尽力で、他大学の同窓会よりも早い時期にWebを使ったセミナーを行うことができました。これも九大歯学部同窓会の強みです。令和5年度の春季学術講演会、症例検討セミナーもハイブリッド形式で行うため、今年度も九大歯学部同窓生を中心に、日本全国から多数の参加が見込まれます。なお、学生はほとんどの企画に無料で参加できるようにしているため、熱心な学生さんも将来を見据えて積極的に参加していますので入学後は積極的に参加してください。

*コンポジットレジン充填:むし歯が悪くなった歯の一部を削って歯の色をしたプラスチックの詰めものをする治療を指します。全国レベルで活躍している、まさに神業のような技術を持つ同窓生による実習だけでなく、技術を競うコンテストも実施しています。



2022年度春季学術講演会の講師、座長、スタッフ一同



「臨床医のための症例検討セミナー」(口腔外科治療編)の講師



「小児歯科実習セミナー」の講師・インストラクター



「臨床医のための症例検討セミナー」(補綴治療編)の講師

九州大学歯学部同窓会

受験生の皆さんへ

九州大学歯学部同窓会 会長 久保秀郎 (福岡県立修猷館高等学校卒)



九州大学歯学部は、2023年に創立56年となりました。卒業生は2600名を超え、国内はもとより海外でも多くの同窓生が歯科医学の発展のため、また歯と口の機能回復や健康維持のため研究や診療に励んでいます。全国の大学で教授として、あるいは地域の歯科医師会やスタディグループでリーダーとして活躍されている先輩も多数います。

歯学部の卒業生はほぼ全員が歯科医師となるわけですから、世代を越えて同窓生のつながりをとて大事にしています。同窓会は1982年に創設され、昨年設立40周年を迎えました。同窓生同志の親睦・学術の研鑽・大学の発展を後援することを目的に活動していますが、学生会員制度もあって大学と連携を取りながら学術活動、卒業生との交流事業、将来像の紹介など多方面から歯学部生をサポートしています。

九州大学歯学部では、「口腔から全身の健康に貢献する」の理念のもとに優秀な歯科医師の育成に力を注いでいますが、まさに社会はそのような歯科医師を求めています。痛みや悩みをかかえて病院を訪れた患者さんから、治療の終わりには満面の笑みで「ありがとうございます」と感謝の言葉をいただいた時の充実感や満足感はそれまでの苦勞を忘れさせてくれます。歯科医はとてもやりがいのある職業です。ぜひ、九州大学歯学部に進路を定めて頑張ってください。入学オリエンテーションでお会いできることを楽しみにしています。